

木曽地域 (上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村)

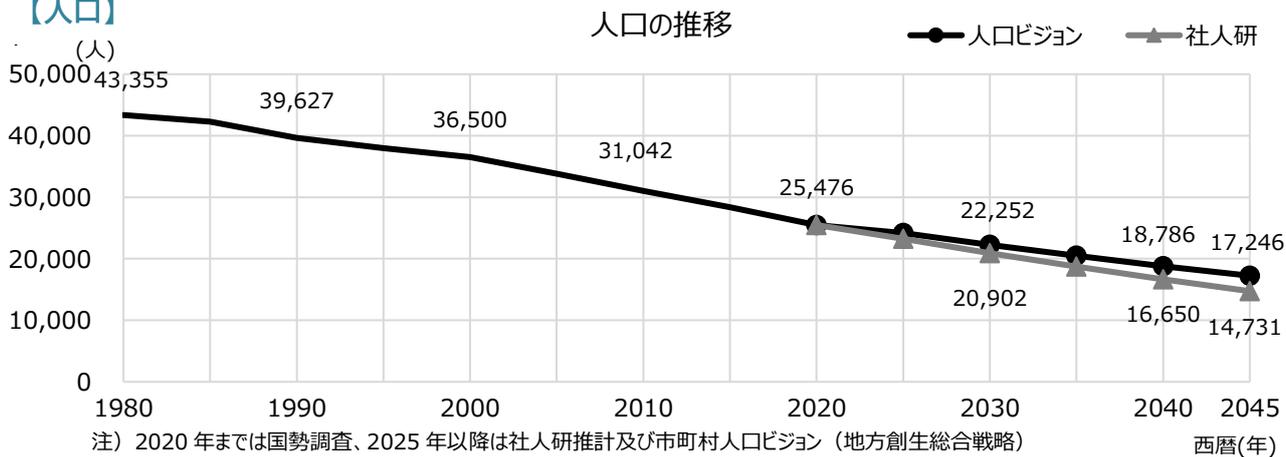
木曽地域の特徴

- ・ 国道 19 号と J R 中央西線が南北に縦断し松本地域や岐阜県中津川市と、また、国道 361 号や国道 256 号が東西を横断し南信地域や岐阜県高山市とつながっています。
- ・ 面積の約 93%を森林が占め、木曽ヒノキ等の優良な木材の産地となっており、また、御嶽山、木曽駒ヶ岳や木曽川など、豊かな自然に恵まれています。
- ・ 中山道や木曽十一宿、渓谷などの自然美、伝統工芸など優れた観光資源が豊富です。
- ・ 活火山である御嶽山、木曽川・流入河川の谷あいの地域は、自然災害のリスクを抱えています。

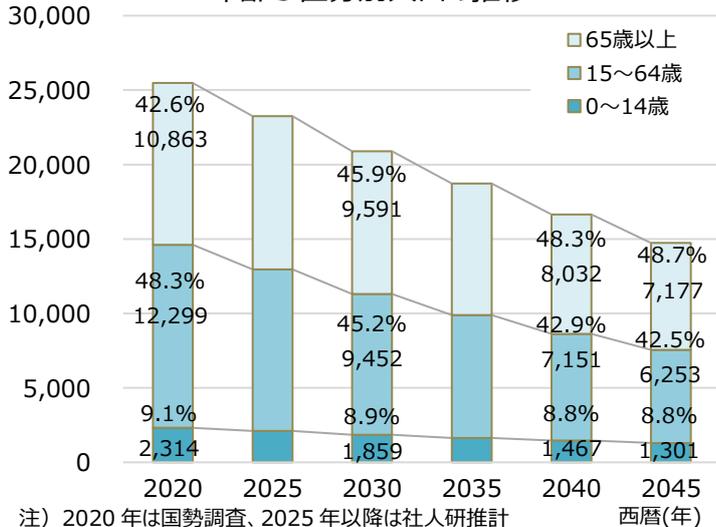
【管内の概況】



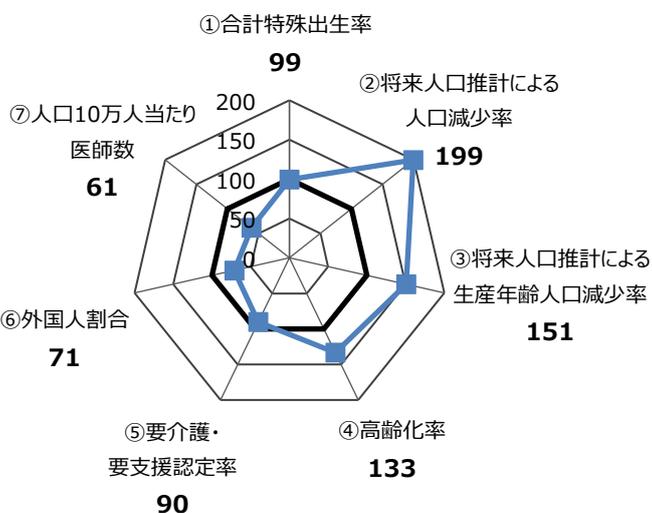
【人口】



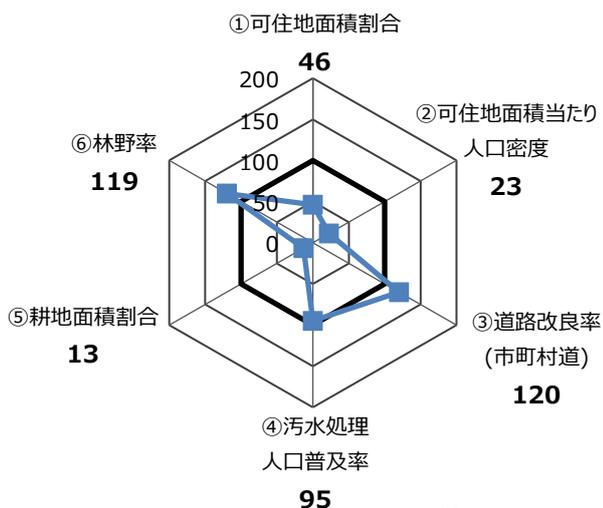
年齢3区分別人口の推移



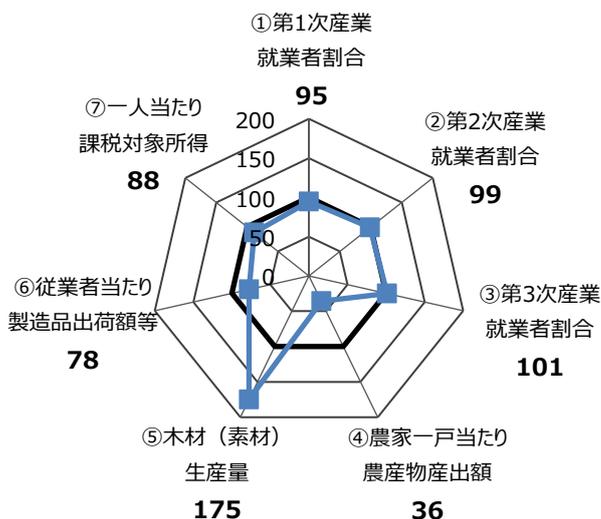
【地域の特徴(人口)】



【地域の特徴(地勢)】



【地域の特徴(産業)】



- ・2020年の人口は約2.5万人と、2015年と比較して10.3%減と著しく減少しており、2040年には2万人を下回ると見込まれています。また、65歳以上人口の割合も42.6%と県全体(32.0%)に比べて高く、今後も少子高齢化が進む見込みです。
- ・山間・谷あいの地形のため、可住地面積割合や耕地面積割合がかなり小さくなっています。
- ・就業者割合は県平均とほぼ同様ですが、木材(素材)生産量の割合が高くなっています。

豊かな自然と歴史・文化に育まれた「木曽らしい」暮らしを維持する地域づくり

- ・全国に誇る森林資源を活かした林業・木材産業を中心にした地域づくり、林業・木工関係の学校等の集積を活かした人材づくりが行われています。
- ・豊かな自然美、2016年4月に文化庁認定を受けた日本遺産*「木曽路はすべて山の中」に代表される優れた観光資源に恵まれた、木曽らしい景観・雰囲気の中を人々が行き交う木曽路を実現しています。
- ・活火山である御嶽山や急峻な山間・谷あいが続く木曽谷は自然災害のリスクを抱えていますが、それに対する防災・減災力を高めています。
- ・美しく豊かな自然、歴史ある街の景観、先人が築き上げてきた祭りなどの伝統文化、郷土愛に根ざした人と人とのつながりや治安の良さなど、木曽の強み、「木曽らしさ」が守られるとともに、安心して暮らし続けられる地域づくりが行われています。

地域重点政策



1 林業・木材産業の振興と森林資源を活かした二酸化炭素吸収源の確保

地域材の高付加価値化を目指すとともに、地域の林業・木材産業の振興に必要な実践力の高い人材育成を進めます。また、地域資源を活かし、「2050 ゼロカーボン」の推進に向けた取組を進めます。

【現状と課題】

- ・木曽ヒノキやカラマツの資源が成熟しており、これらの地域材の販路拡大を図るため、産学官で構成する「木曽地域木材産業振興対策協議会」のロードマップに沿って、その有効活用を目指していますが、更に高付加価値化等に取り組む必要があります。
- ・林業・木工関係の学校等が集積しており、各校で森林を守り、育て、利用する学習や訓練等に取り組む中、より多くの人材が地域へ定着することが期待されています。
- ・木質バイオマス*の熱エネルギー利用や小水力発電など、ゼロカーボンの達成に向けた取組を更に進める必要があります。

【取組内容】

- 林業・木材産業の振興
 - ・JAS（日本農林規格）工場を核とした地域製材工場の水平連携体制づくりなど、地域材の高付加価値化を推進
 - ・適切な森林整備（間伐、主伐・再生林*、路網整備）を計画的に実施
 - ・民間建築物への波及効果が高い、公共施設等の木造・木質化による地域材の普及啓発と需要拡大
- 林業・木材産業の人材育成
 - ・林業大学校、上松技術専門校、木曽青峰高等学校による3校連携をはじめ、産学官連携を深め、人材の確保や技術の向上等林業・木材産業の後継者対策を推進
- 地域資源を活かした自然エネルギーへの転換、二酸化炭素排出抑制
 - ・公共施設等での木質バイオマス*利用や木質バイオマス生産施設等の整備を促進
 - ・農業用水を活用した小水力発電施設の整備を推進

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
製材品出荷量 木材流通調査（林務部）	12,396 m ³ (2020年)	15,000 m ³ (2026年)	地域材を製材加工した製品出荷量 [実績の増加率を基に設定]



地域製材工場における製材品の生産(南木曽町)



木質バイオマス燃料供給拠点施設(木曽町)



2 木曽らしさを活かした観光振興

持続可能な観光振興を推進するために、地域の関係者が一体となって木曽路の魅力を発信し、観光客を増やします。

【現状と課題】

- ・観光客の入り込みは御嶽山噴火災害から回復の途にありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により再び大きな打撃を受けていることから、国内外に木曽の魅力を発信する取組が必要です。
- ・2022年7月に認定継続された木曽路の共有財産である「日本遺産*」を活かして、関係者が一層連携し観光振興につなげることが必要です。
- ・2022年8月に「御嶽山ビジターセンター（やまテラス王滝・さとテラス三岳）」が開館し、また、御嶽山の国定公園化に向けた機運が高まっていることから、御嶽山の魅力を発信し、観光振興にもつなげていくことが必要です。

【取組内容】

- 日本遺産*を活かした観光地域づくりと広域観光の推進
 - ・「日本遺産*」に代表される地域資源の魅力や価値を様々な視点から磨き上げ、発信するとともに、食や工芸など地域文化が体験できる観光地域づくりを促進
 - ・リニア中央新幹線の開業等を見据えた広域観光や地域内の周遊を促す観光誘客を推進
- 御嶽山の魅力発信
 - ・「御嶽山火山マイスター*」と連携し、「御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる学びの場」である「御嶽山ビジターセンター」を情報発信拠点として活用
 - ・御嶽山の優れた自然環境の一層の保護を図るとともに、御嶽山一帯の魅力や価値を発信し、国定公園化を推進

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	155万人 (2021年)	225万人 (2027年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延べ人数 [コロナ前水準(2019年)の実績を基に設定]



寝覚の床(上松町)



木曽十一宿の1つ「妻籠宿」(南木曽町)



【御嶽山ビジターセンター】

「さとテラス三岳」(木曽町)



「やまテラス王滝」から望む御嶽山(王滝村)



3 地域防災力・減災力の強化

近年多発している大雨による河川・土砂災害、地震などの自然災害に対する地域防災力・減災力を高めるとともに、御嶽山の安全対策を着実に進めます。

【現状と課題】

- ・直近では2021年8月豪雨により、大きな被害が生じており、ハード・ソフト両面において地域全体での更なる防災・減災対策が必要です。
- ・災害時の迂回路を確保するための国道19号を補完する道路の整備が引き続き必要です。(取組内容は、次頁の「道路、交通」の項目に記載)
- ・「御嶽山ビジターセンター」が開館するとともに、避難施設等の整備も進んでいるため、今後はソフト面での御嶽山安全対策を充実させる必要があります。

【取組内容】

- 地域の強靱化
 - ・ハード対策として、河川・砂防・治山・農業関連施設の整備、住宅・建築物の耐震化促進等を推進
 - ・ソフト対策として、ハザードマップ*作成支援、防災訓練等を実施
- 御嶽山安全対策
 - ・「御嶽山ビジターセンター」を活用し、リアルタイムの情報発信や安全登山啓発等のソフト面での対策を強化

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
地区防災マップ作成地区数 (木曽建設事務所調)	29地区 (2021年度)	44地区 (2027年度)	災害時住民主導型警戒避難体制構築のための地区防災マップ作成地区数 [過去の実績を考慮し目標を設定]



木曽川右岸道路(大桑村殿～阿寺工区ルート)



2021年8月豪雨による木曽川沿いの住宅被害(木曽町)

4 人口減少下における持続可能な地域づくり

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、生活・産業活動基盤の維持、確保を図ります。

【現状と課題】

- ・生活の基盤となる医療、道路・交通、産業、教育、治安などを維持していくことが必要です。
- ・木曾圏域は、県内で最も人口減少、少子高齢化が進んでおり、産業に必要な人材の確保が急務です。また、地域の活力を維持するための取組が求められています。

【取組内容】

●医療

- ・木曾病院の機能を堅持するため、信州大学や信州木曾看護専門学校等との連携による医療従事者の確保に引き続き努めるとともに、木曾圏域内外の医療連携を進めつつ、遠隔診療の導入や医療人材の広域的確保等の取組を支援し、質の高い医療提供体制を確保

●道路、交通

- ・国道 19 号の整備及び安全対策の促進
- ・東西の交流を支える国道 256 号、国道 361 号の整備を推進
- ・生活路線、観光誘客、災害時の迂回路等多くの機能を持つ木曾川右岸道路、姥神峠道路の整備を推進
- ・「木曾地域公共交通活性化協議会」における地域公共交通についての対策を促進



信州木曾看護専門学校の吸引演習(木曾町)

●産業人材の確保

- ・郡内 2 高校の生徒等に対して、地元で働くことの意義や、商工業、建設業をはじめ、地元企業等への理解を深める機会を創出することにより地域就業を促進
- ・木曾の特色ある農業と食文化（「すんき」、「木曾牛」等）を次世代に継承していく新規就農者、女性農業者、移住者、定年帰農者など多様な担い手の確保・育成
- ・子どものうちから「木曾らしさ（自然、歴史・文化など）」の学びを促進

●ブランディング等の推進

- ・地域の良さを明確にし、磨き上げることで地域の価値やイメージを高めて定住や移住を促進するなど、地域が一体となったブランディングへの取組
- ・中京圏との木曾川上下流交流により、自治体を含めた学校や経済交流を一層促進するなど地域を活性化
- ・地域のスポーツとして定着している「相撲」を核に、様々なスポーツ活動やイベント等と連携し、スポーツと健康をキーワードに地域づくりを推進



木曾川上下流交流(愛知県名古屋市と木祖村)

●広域連携の推進

- ・人口減少下における持続可能な地域づくりを進めるため、「木曾広域自立圏連携ビジョン」等に基づき、県、町村、広域連合が連携した取組を推進

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
移住者数 (企画振興部調)	178 人 (2017~2021 年度累計)	250 人 (2023~2027 年度累計)	新規学卒Uターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者数 [過去の移住者数を基に設定]